

第 2 学年 2 組 算数科学習指導案

場所 2 年 2 組教室

1 単元 たし算とひき算のひっ算(1) (本時 7/11)

2 本時の目標

(1) 計算棒を用いて、繰り下がりのあるひき算の筆算の仕方を考えることができる。

(思考・判断・表現)

(2) 繰り下がりのあるひき算の筆算の仕方を進んで友だちに説明しようとする。

(主体的に学習に取り組む態度)

3 課題を追究するための手だて

・自分の考えをまとめることができるように、計算の手順をまとめるワークシートを用意する。

4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (2)	1 既習事項を確かめる。 ・繰り上がりのあるたし算の筆算ができる。 ・ひき算のひっ算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと違う問題に挑戦したいという意欲を高めるために、前時までに学習したキーワードを黒板に貼る。 ・問題を身近に捉えられるように、サツマイモの数の違いを求める場面を設定する。 ・問題を読み、今日の問題は前回とどこが違うのかを問いかける。
課題 (2)	2 学習課題をつかむ。 ・ちがいをもとめようだから、 $53 - 26$ です。	
展開 (38)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 一のくらいがひけないひっ算のしかたを考えよう </div> 3 個人追及をする。 ・ $3 - 6$ はできないから、 10 の束をばらさないといけないな。 4 グループで追及をする。 ・ $3 - 6$ はできないから、 $20 - 8$ のときみたいに、 10 を崩して考えたらいいよ。 ・十の位にある 10 のまとまりをばらして、一の位にもっていくと、 $13 - 6$ になる。 5 全体で意見を交流する。 ・十の位の 10 の束を1つばらして考えると、 $13 - 6$ になるので、計算できます。 ・十の位から計算してしまうと、十の位の計算をやりなおすことになります。 6 適応題を解く。 7 本時の振り返りをする。 ・繰り下がりのあるひっ算ができるようになったよ。	<ul style="list-style-type: none"> ・位取り表を配布し、計算棒を操作して計算の仕方を考えるように指示する。 ・グループで自分の考えを見直したり、説明しあったりできるよう、交流する活動の場を設定する。 ・<u>個に戻って一の位の処理も含めた計算手順を考えられるように、穴埋め式のワークシートを配布する。</u> ・10のまとまりをばらして、隣の小さな位に移すことを「繰り下げる」ということを伝える。 ・十の位から計算した場合を示し、一の位から計算するよさを確かめる。 ・位を縦に揃えてひっ算を書けるように、位ごとに色分けをしたワークシートを配布し、直接書き込むように指示する。 ・キーワードをつけて書いた児童の意見を発表する。
整理 (3)		

5 評価

(1) (2位数)-(2位数)で繰り下がりのある筆算の仕方を考えている。

(活動 3.6 の様子から)

(2) 繰り下がりのある筆算の仕方を、計算棒と対応させて説明している。

(活動 4.5 の様子から)